



働きものを、幸せものに。

日総工産株式会社

東証プライム市場 コード6569

2023年3月期

決算説明会資料

2023年5月15日開催予定

2023年3月期 実績

- 前期比で増収、営業増益
- 売上高は上場来、最高を更新
- 自動車は部品不足の影響継続も、回復基調により増益
- 電子デバイスは電子部品、半導体メモリの需要減少が継続
- エンジニア系の売上高は前期比で増加

2024年3月期 連結業績予想

- エレクトロニクスの部品需要は徐々に回復すると予想
- セミコンダクター（メモリ分野等）の在庫調整の影響は継続を想定
- オートモーティブは部品不足の影響が残るも、稼働回復により増収増益を予想

- 1** 2023年3月期 **決算概要**
- 2** 2023年3月期 **活動の概況**
- 3** **セグメント別業績について**
- 4** **今後の見通し(2024年3月期)**
- 5** **株主還元方針**
- 6** **補足資料**



1

2023年3月期 決算概要

2023年3月期 連結業績ハイライト



(単位：百万円)

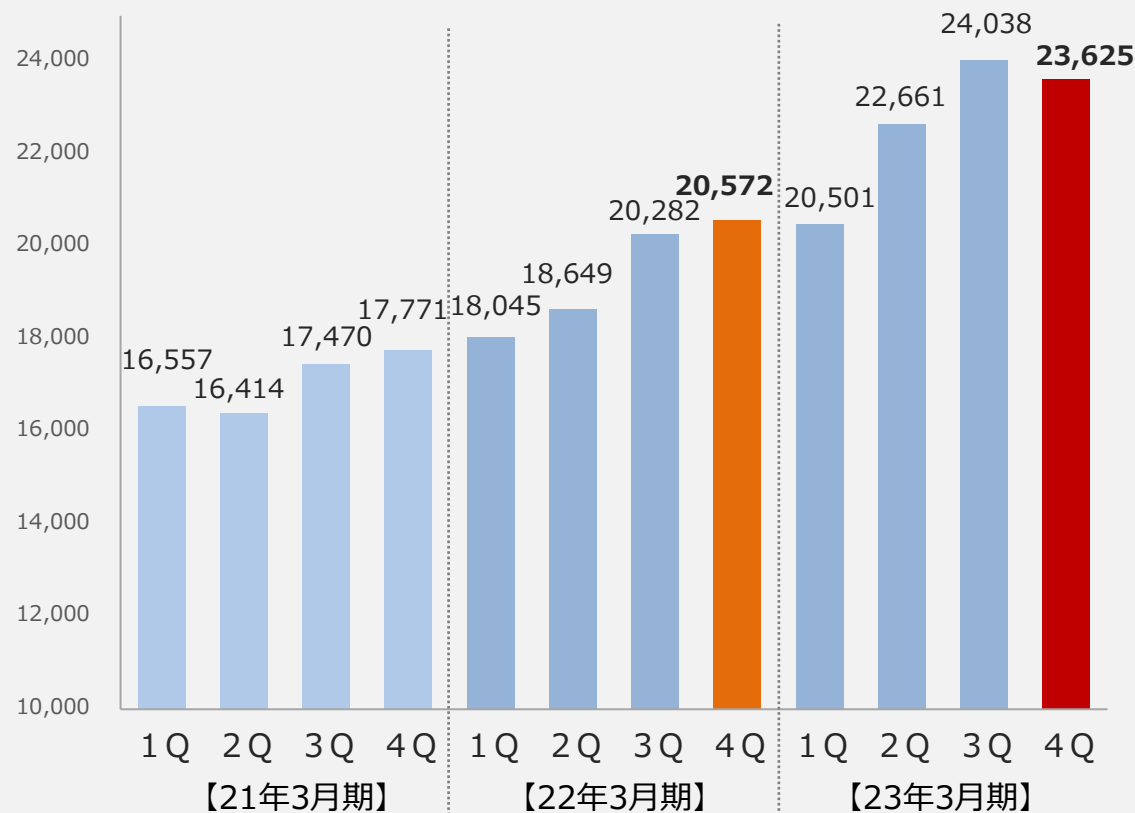
ポイント

- 売上高は、在籍人数の増加、請求単価上昇等もあり17.1%増加。
- 自動車は部品不足の影響継続するも、稼働が緩やかに回復、3Q比で粗利が0.3ポイント改善。
- その他の事業（介護・福祉系サービス）は増収増益。

	22年3月期		23年3月期		対前期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	77,549	100.0%	90,827	100.0%	13,277	17.1%
売上総利益	12,950	16.7%	14,554	16.0%	1,604	12.4%
販管費	10,863	14.0%	12,286	13.5%	1,423	13.1%
営業利益	2,087	2.7%	2,268	2.5%	181	8.7%
経常利益	2,369	3.1%	2,349	2.6%	△ 20	△0.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,696	2.2%	1,622	1.8%	△ 74	△4.4%

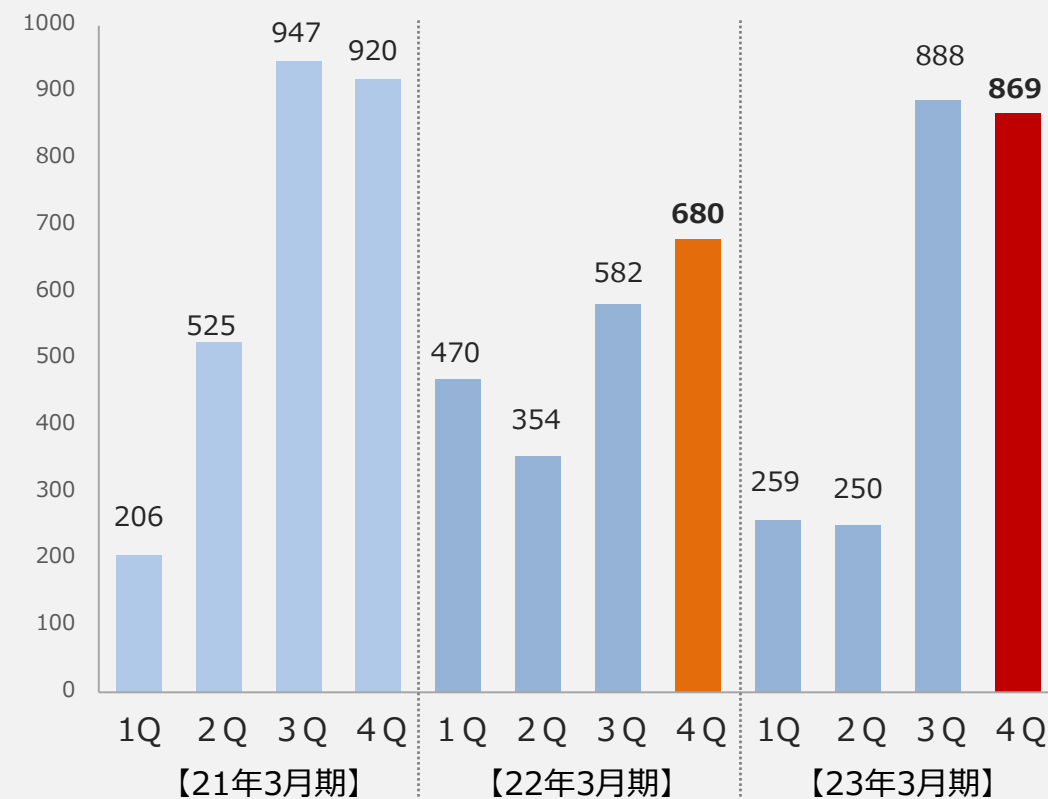
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



2023年3月期 単体業績ハイライト

売上高について

- 売上高は、在籍人数の増加及び請求単価上昇等もあり12.7%増加。

費用・利益面について

- 自動車は部品不足の影響継続するも、稼働（稼働日数、残業時間、休出時間等）の緩やかな回復が継続、粗利も3Q比で0.3ポイント改善。
- 人材ニーズは堅調。
- 採用費を効率化、販管比率は前年同期比で改善。

(単位：百万円)

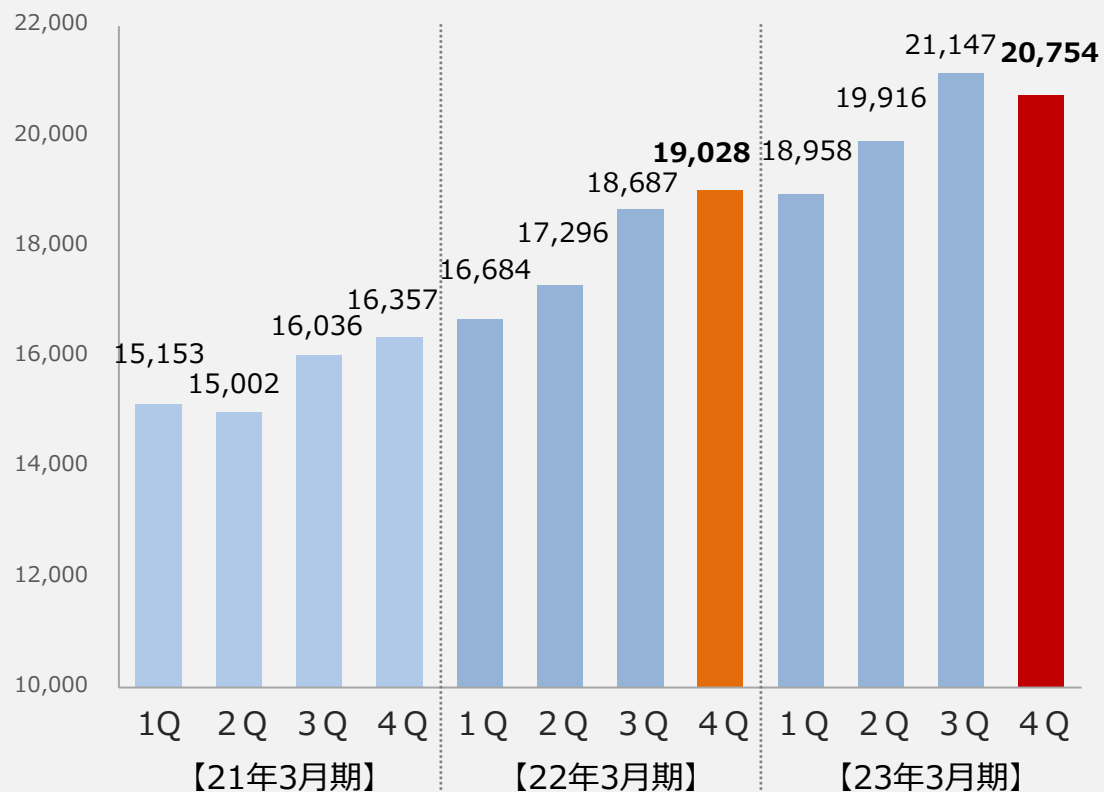
	22年3月期		23年3月期		対前期比	
	実績	百分比	実績	百分比	増減額	増減率
売上高	71,697	100.0%	80,776	100.0%	9,078	12.7%
売上総利益	12,336	17.2%	13,445	16.6%	1,108	9.0%
販管費	10,222	14.3%	11,177	13.8%	955	9.3%
営業利益	2,114	2.9%	2,267	2.8%	153	7.2%
経常利益	2,294	3.2%	2,337	2.9%	42	1.8%
当期純利益	1,607	2.2%	1,638	2.0%	30	1.9%

2023年3月期 四半期単位の単体業績



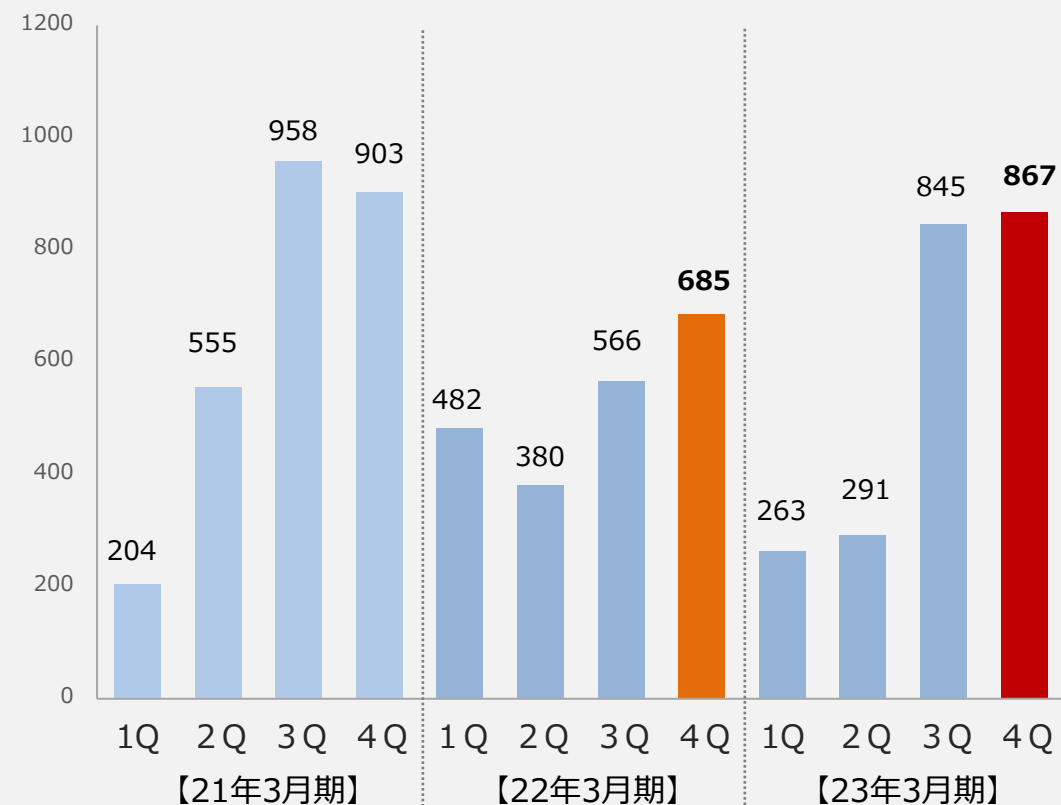
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)





2 2023年3月期 活動の概況

2023年3月期 業績サマリー



連結業績

売上高	90,827百万円	(前期比 13,277百万円 / 17.1%)
営業利益	2,268百万円	(前期比 181百万円 / 8.7%)

単体業績

● 業種別売上高（前期比）

自動車	…+15.0%
電子デバイス	…+11.9%

- ・自動車は、前期比で15.0%増加。部品不足の影響が残るも、稼働が緩やかに回復、売上高は増加。
- ・電子デバイスは、前期比で11.9%増加。請求単価上昇等もあり増加も、電子部品、半導体メモリの需要減少が継続し、伸びが鈍化。

● 期末在籍者数

15,998名（前期末比+1,053名）

- ・在籍人数は、前期末比で1,053名増加。人材ニーズは堅調に推移、在籍人数は、前期比で増加。

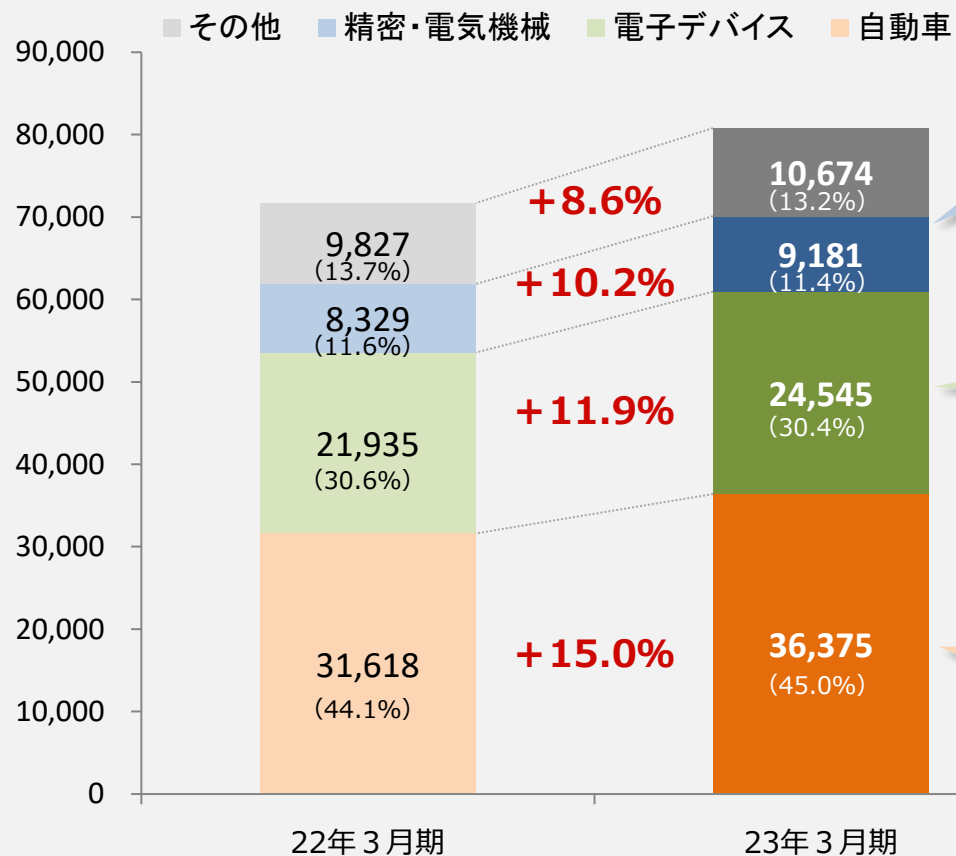
● 一人当たり売上高/月

426千円（前期比+11千円）

- ・一人当たりの売上高は、前期比で11千円増加。請求単価の上昇、自動車での稼働の緩やかな回復等もあり増加。

2023年3月期 業種別売上高（単体）

売上高構成比 （単位：百万円）



※（ ）内%は全売上高比、赤字の%は、前期比伸長率

【精密・電気機械】

前期比で10.2%増加。在籍人数の増加、請求単価の上昇等もあり増加。

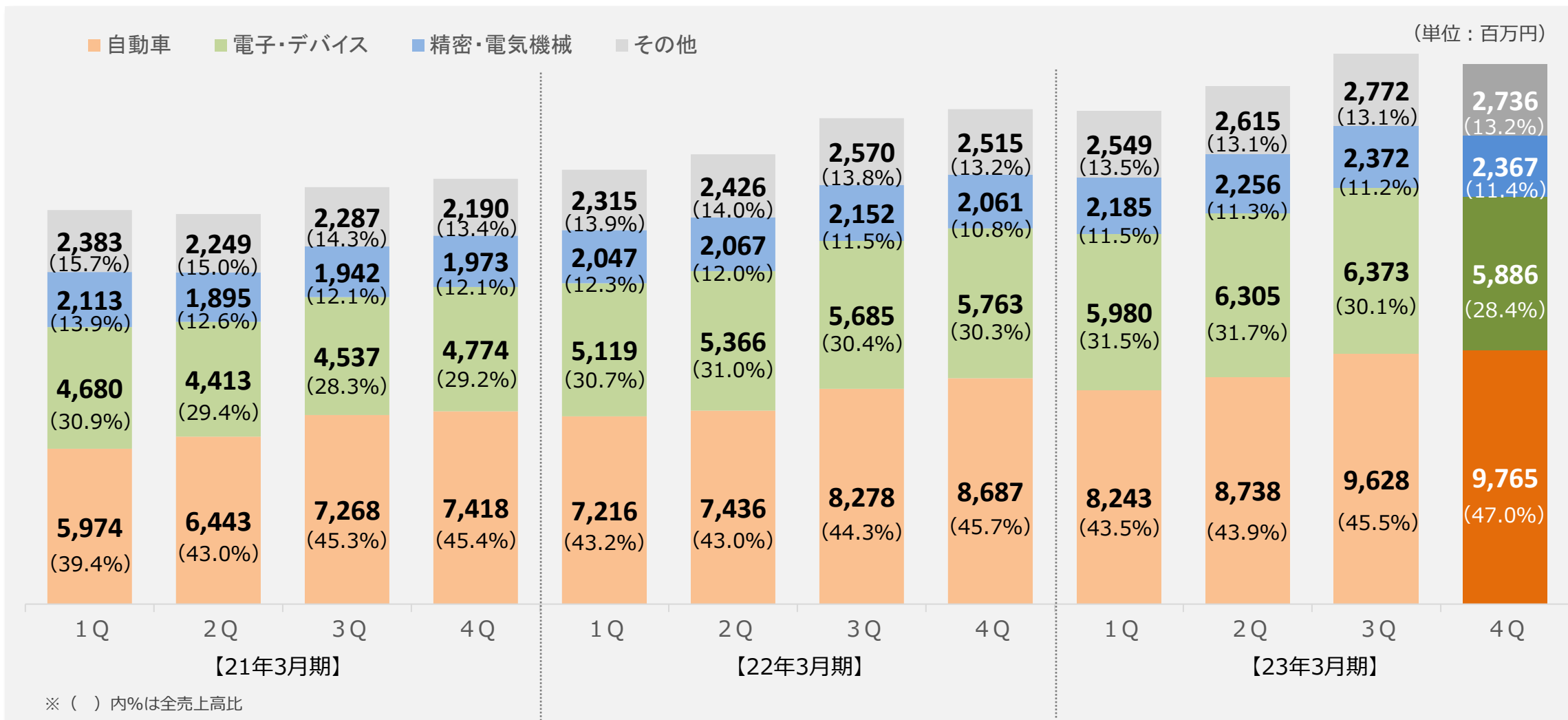
【電子デバイス】

前期比で11.9%増加。請求単価の上昇等もあり増加。電子部品、半導体メモリの需要減少が継続し伸びが鈍化。売上高は上場来、最高を更新。

【自動車】

前期比で15.0%増加。部品不足等による稼働減少（稼働日数、残業時間、休出時間等）の影響が残るも、緩やかな回復が継続。在籍人数の増加、請求単価の上昇等もあり売上高は上場来、最高を更新。

2023年3月期 四半期単位業種別売上高（単体）



アカウント企業について（単体）

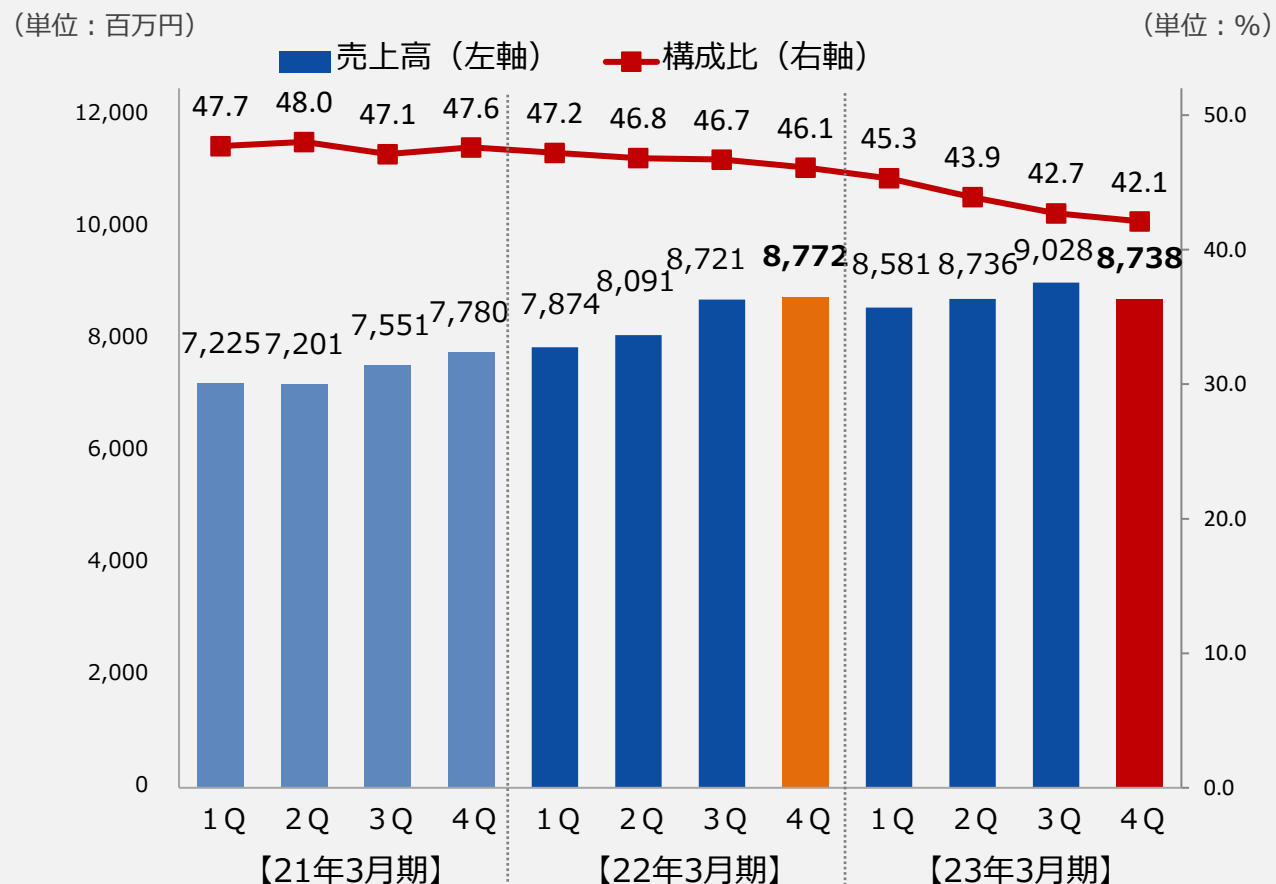
ポイント①

アカウント企業グループの4Qとしての売上高は、前年同期比で0.4%減少。

ポイント②

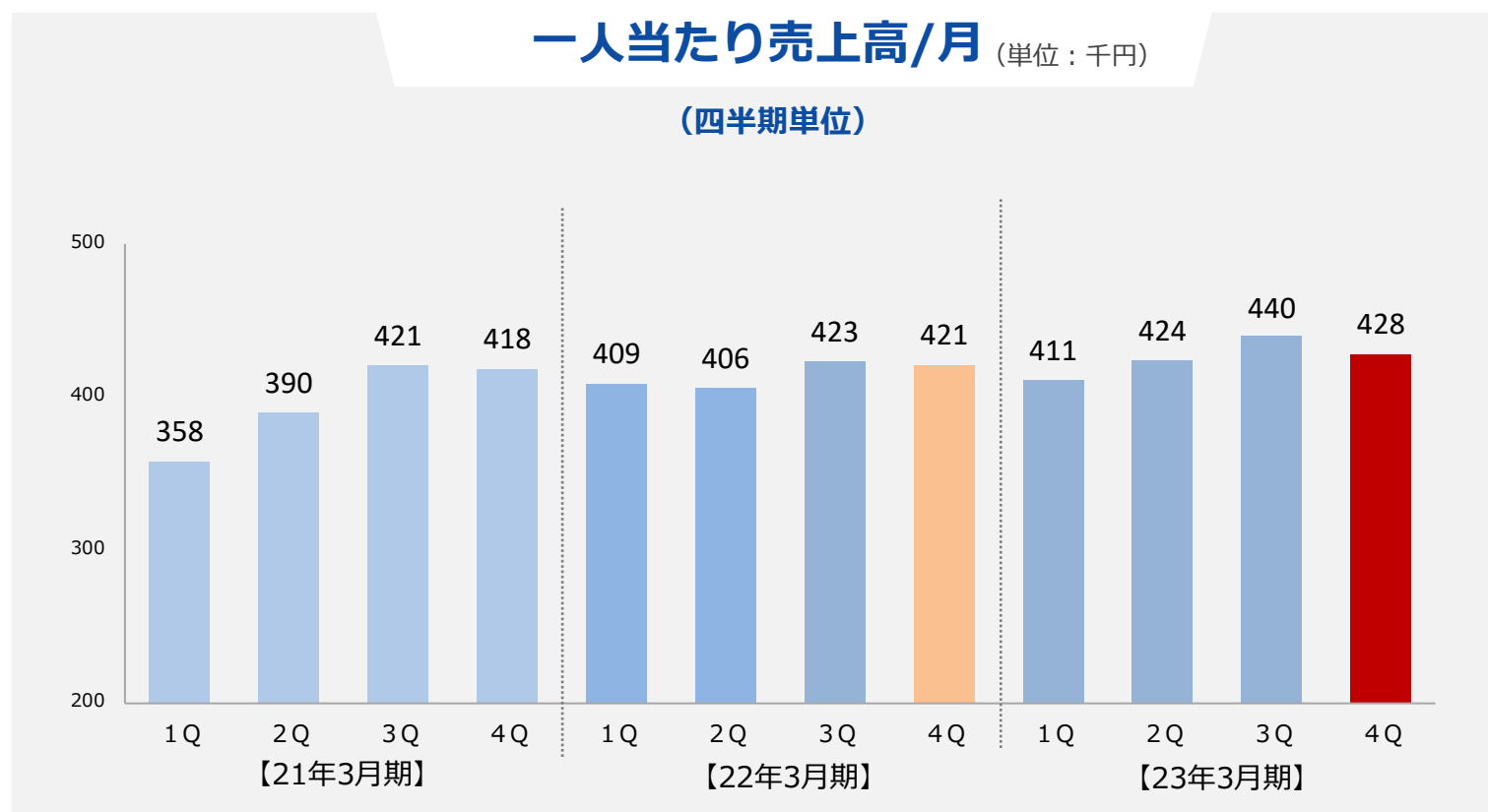
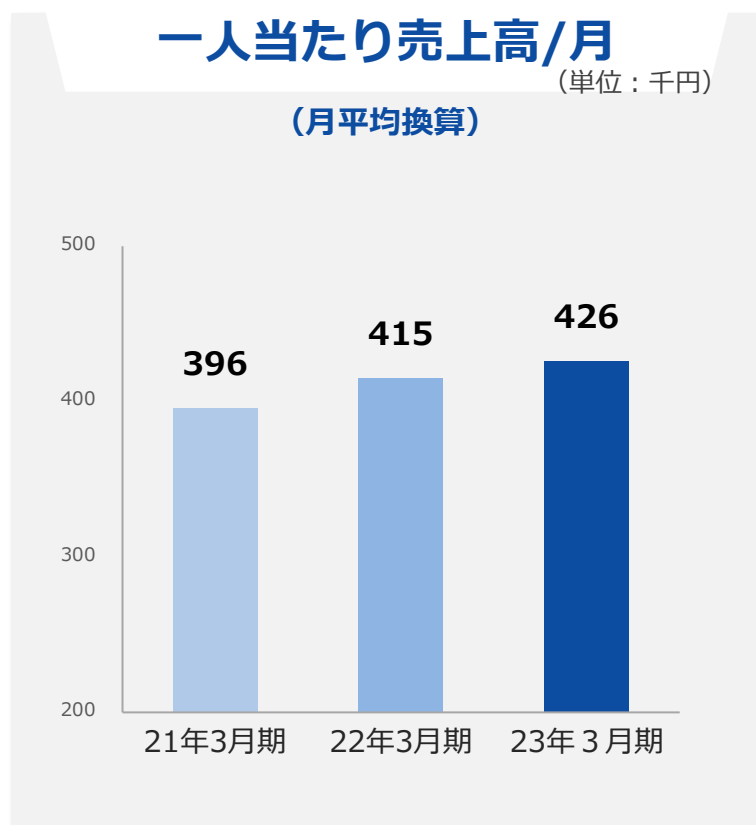
- 自動車系企業グループでは、部品不足等による稼働減少（稼働日数、残業時間、休出時間等）の影響が残るも、引き続き稼働が緩やかに回復。
- 電子デバイス系企業グループでは、電子部品、半導体メモリの需要減少が継続。
- その他分野の増加により構成比は前年同期比で減少。

アカウント企業グループ売上高



一人当たり売上高/月（単体）

- 2023年3月期累計 <全社> 一人当たり売上高 426/月 千円（前期比 +11千円）
- 一人当たりの売上高は、請求単価の上昇、自動車での稼働の緩やかな回復等もあり前期比で増加。



在籍人数（単体）

前期末比

+1,053名（+7.0%）

ポイント①

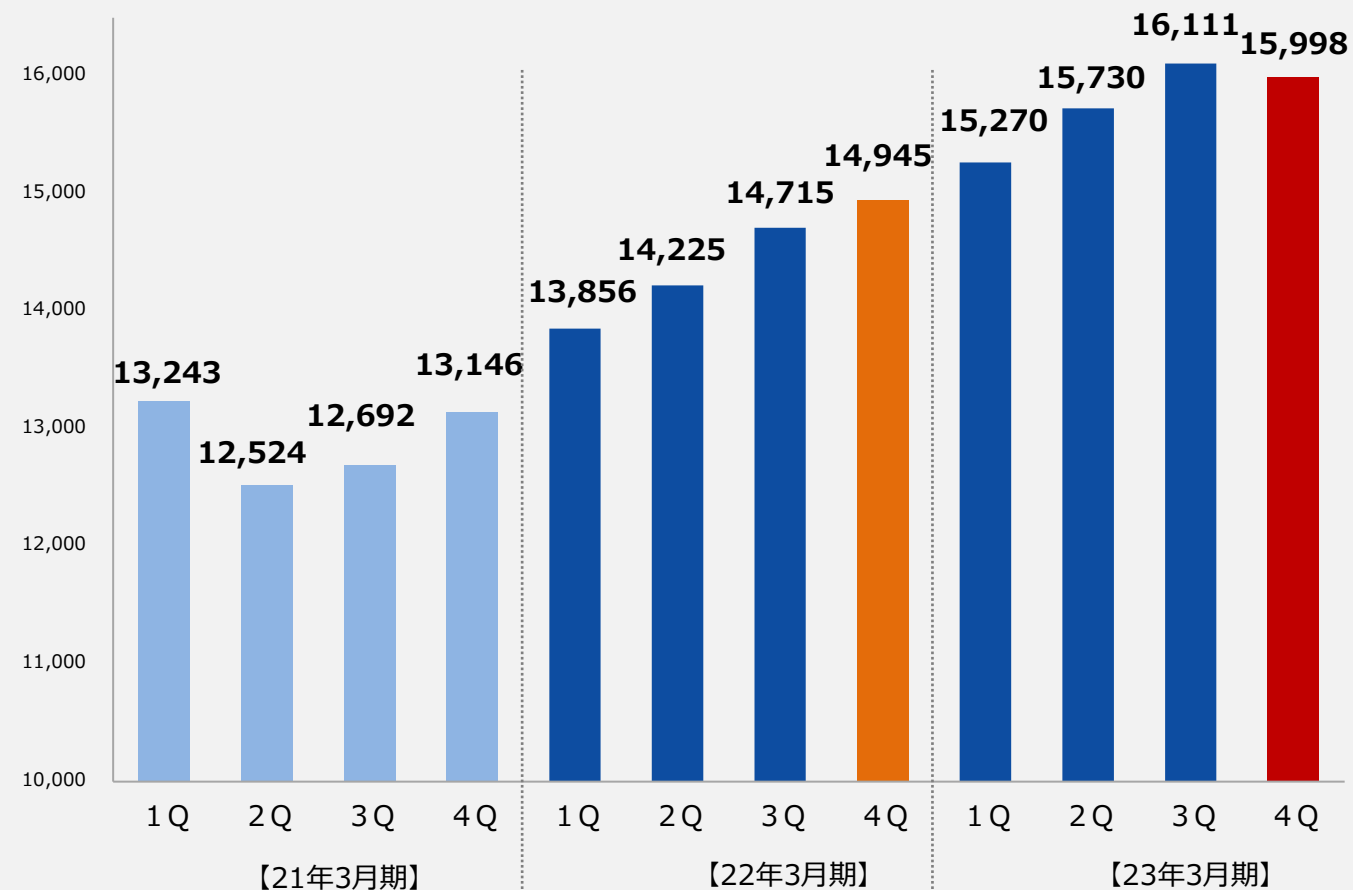
人材ニーズは堅調に推移、在籍人数は、前期末比で増加。

ポイント②

人材ニーズは堅調なるも、電子部品や半導体メモリの在庫調整の影響で、3Q比で一時的に在籍人数が減少。

期末在籍人数

（単位：名）



教育実績（単体）

ポイント①

主要なコース別教育実績は、前期比で増加。

ポイント②

エンジニアの拡大強化もあり、エンジニア教育の受講者数は、前期比で452名増加。

● 2023年3月期 主要なコース別教育実績（延べ人数）

（単位：名）

研修名	内容	22年3月期	23年3月期	対前期比増減数
設備保全基礎教育	設備保全基礎教育	290	362	+72
エンジニア教育	製造設備保全・製造設備技術 機械設計・生産技術 SEAJ教育 (半導体に特化した安全教育)	418	870	+452
製造教育	ものづくり教育 製造スタッフ配属前実習 移動教育等	5,396	6,059	+663
	合 計	6,104	7,291	+1,187



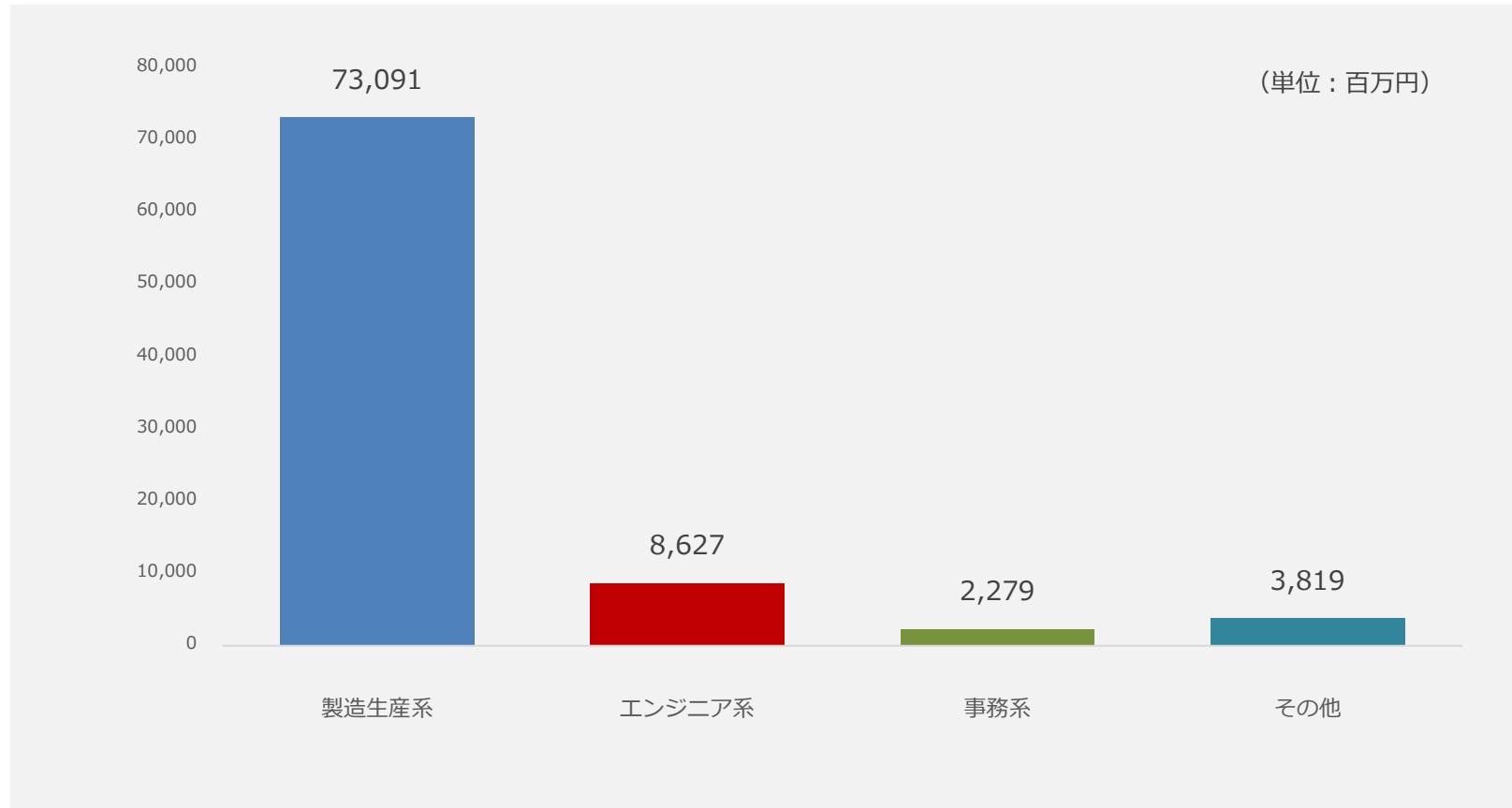
3 セグメント別業績について (2023年3月期)

セグメント（サービス）別売上高



2023年3月期 総合人材サービス事業

2023年3月期 その他の事業



製造生産系人材サービスについて



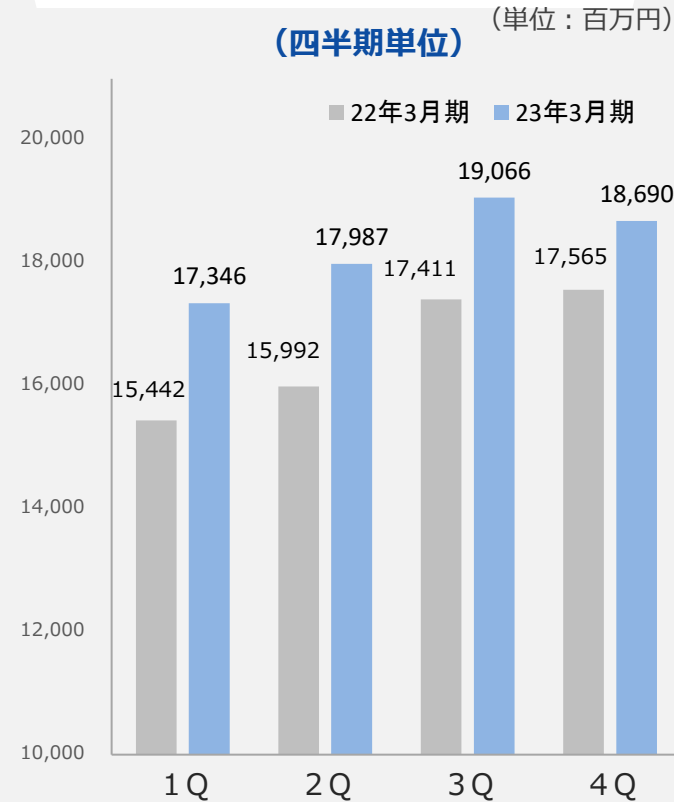
売上高について

4Qの製造生産系の売上高は、在籍人数の増加、請求単価上昇等もあり前年同期比で6.4%増加。

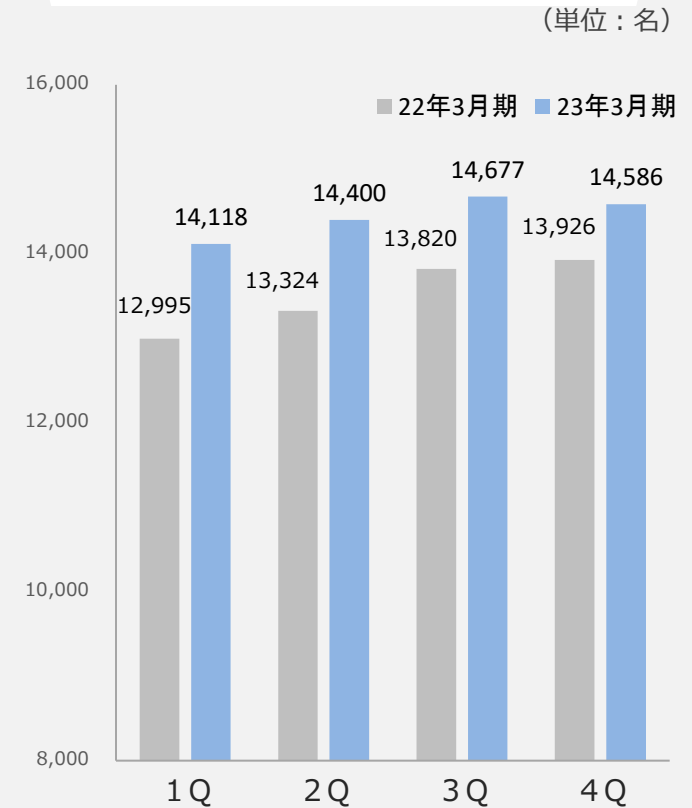
在籍人数について

製造生産系の在籍人数は、堅調な人材ニーズに応え、前年同期比で660名増加。

製造生産系 売上高



製造生産系 期末在籍人数



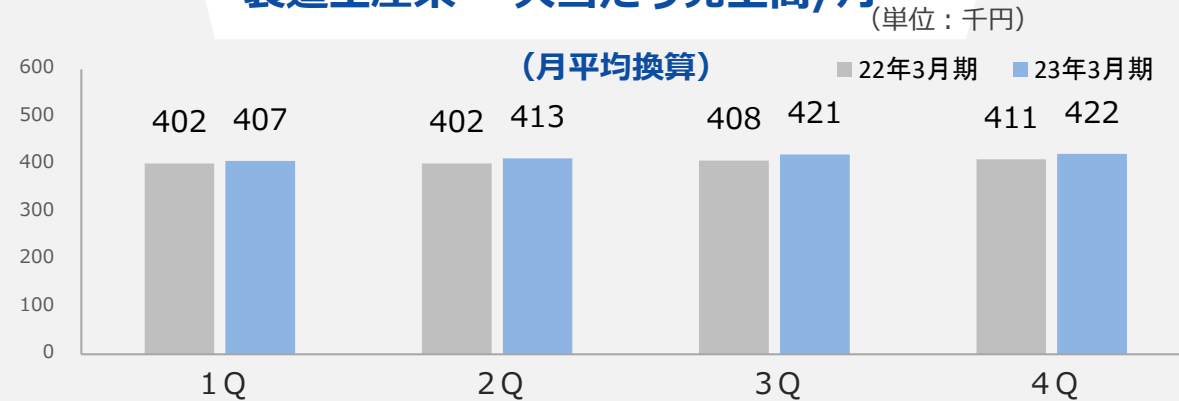
製造生産系人材サービスについて



一人当たりの売上高/月について

製造生産系の一人当たりの売上高は、前期比で2.7%増加。

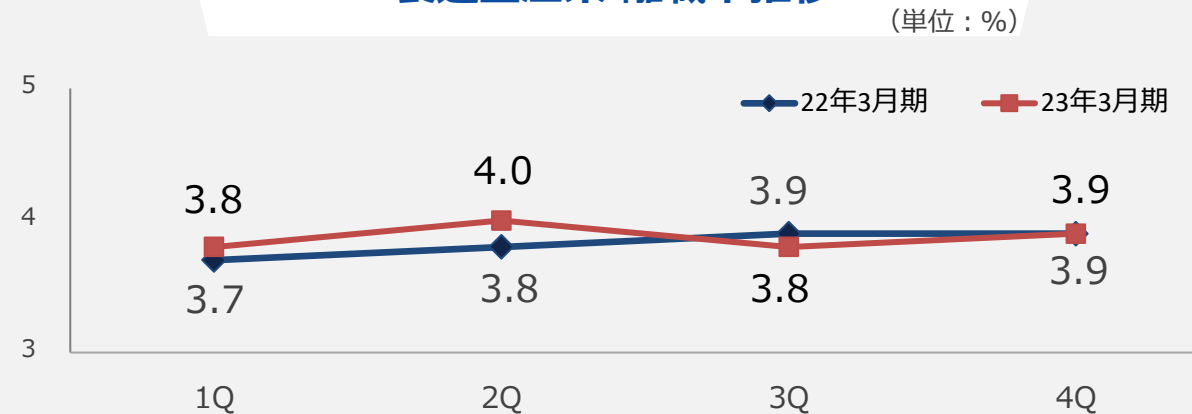
製造生産系 一人当たり売上高/月



離職率について

製造生産系の離職率は、3.9%。
前期同様4%未満を維持。

製造生産系 離職率推移



エンジニア系人材サービスについて



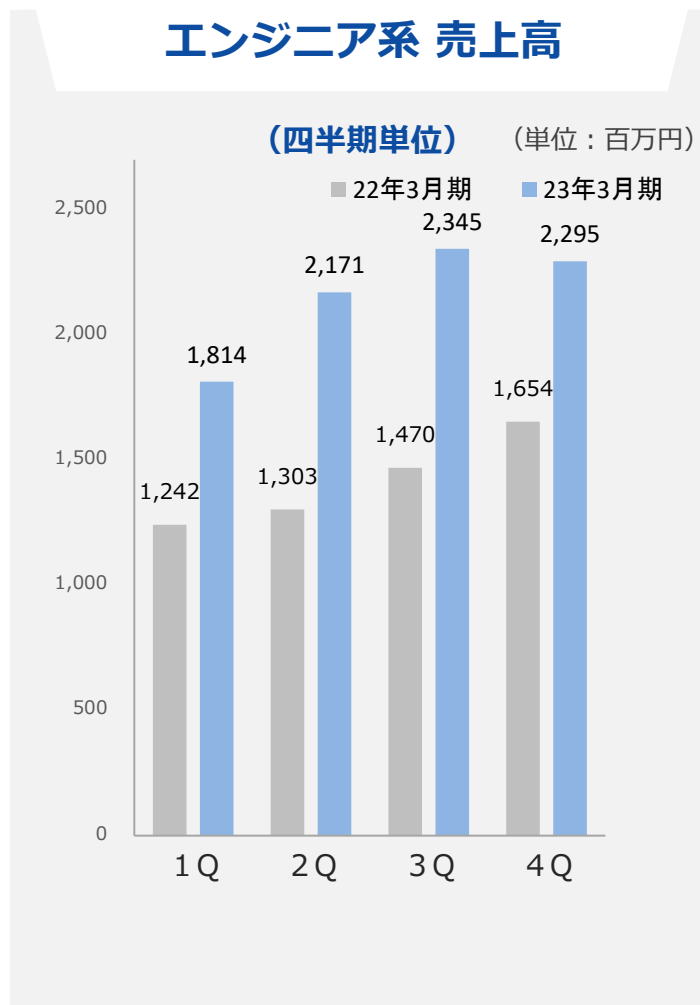
売上高について

4Qのエンジニア系の売上高は、前年同期比で38.8%増加。

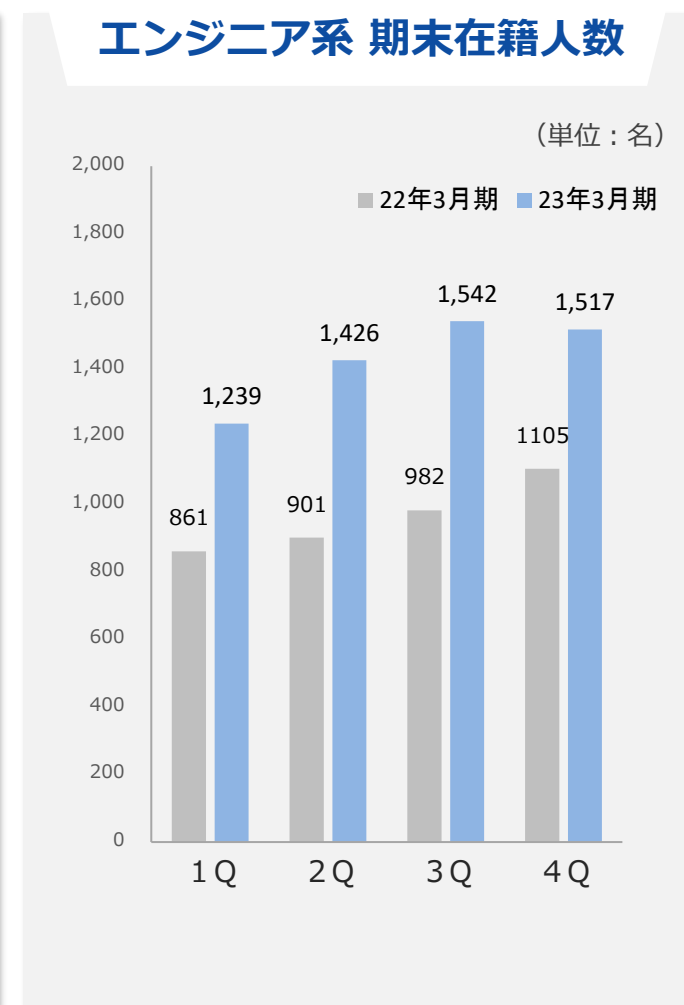
在籍人数について

- ・エンジニア系の在籍人数は、前年同期比で412名増加。
- ・半導体メモリの在庫調整の影響もあり3Q比で一時的に在籍人数が微減。

エンジニア系 売上高



エンジニア系 期末在籍人数



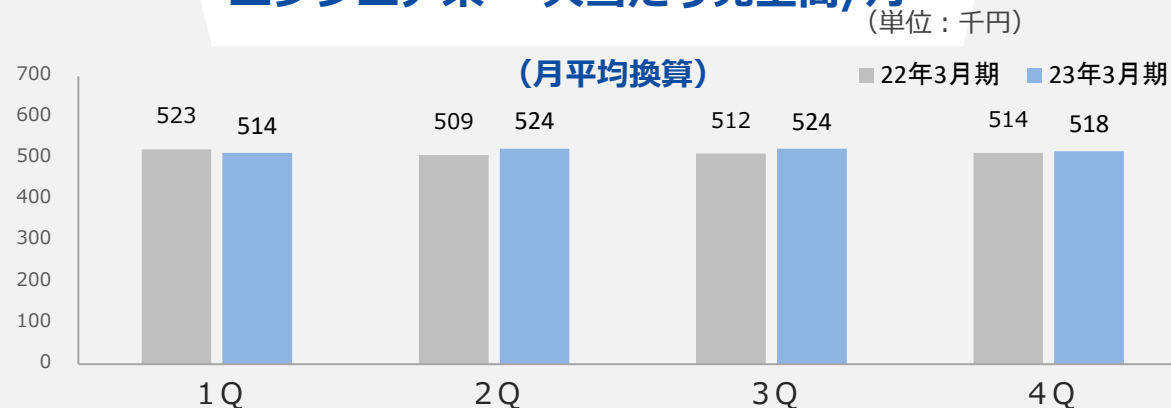
エンジニア系人材サービスについて



一人当たりの売上高/月について

エンジニア系の一人当たりの売上高は、前期比で0.7%増加。

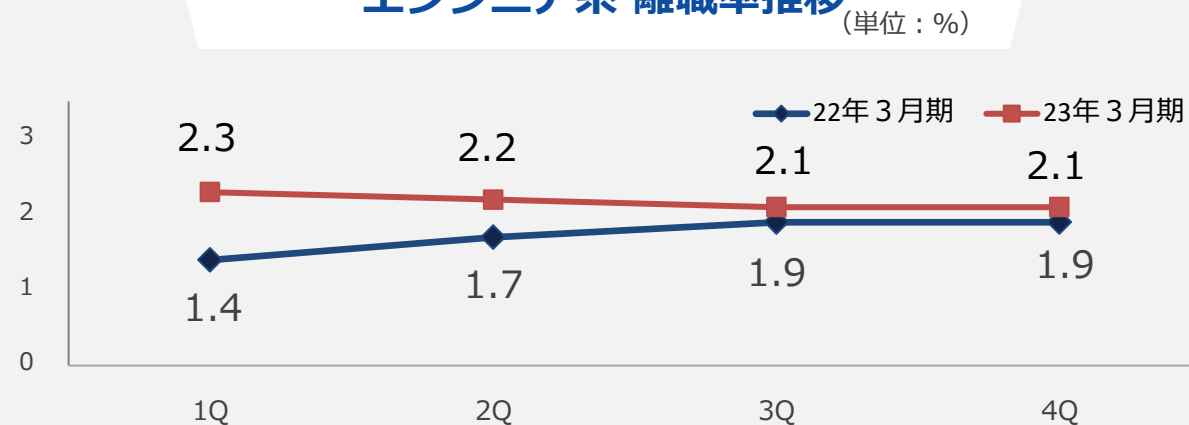
エンジニア系 一人当たり売上高/月



離職率について

エンジニア系の離職率は、前期比で0.2ポイント低下も、3Q比では現状を維持。

エンジニア系 離職率推移



エンジニア系人材サービスの成長に向けて

地域社会、半導体関連メーカー、研修センターとの連携を高め、高付加価値人材の育成を目指します。



長野県知事認定訓練校
日総テクニカルセンター中日本
(長野県岡谷市)

苫小牧トレーニングセンター
(北海道苫小牧市)

**東北半導体・
エレクトロニクスデザイン研究会**

2022年11月より参画



豊田トレーニングセンター
(愛知県豊田市)

日総テクニカルセンター九州
(福岡県豊前市)

宮城県知事認定訓練校
日総テクニカルセンター東日本
(宮城県栗原市)



New

**九州半導体人材育成等
コンソーシアム**

2023年4月より参画

太田トレーニングセンター
(群馬県太田市)

日総テクノセンター
(神奈川県横浜市)



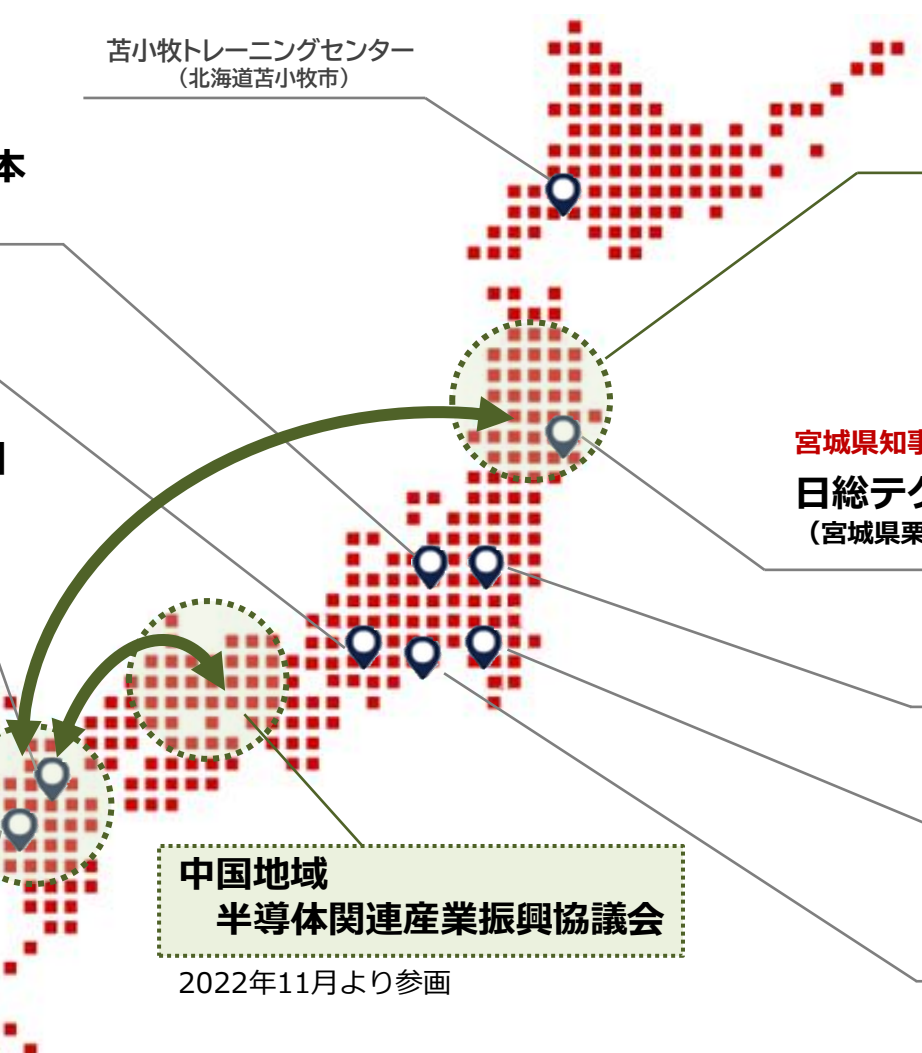
New

熊本県知事認定訓練校
日総テクニカルセンター熊本
(熊本県大津町)

**中国地域
半導体関連産業振興協議会**

2022年11月より参画

浜松トレーニングセンター
(静岡県浜松市)



エンジニア系人材サービスの成長に向けて

半導体関連の「装置技術エンジニア」の育成を目指し、
全国9か所目の研修センターとなる「日総テクニカルセンター熊本」を開設しました。

(2023年4月13日に開催された「開所式」)



熊本県知事認定訓練校
日総テクニカルセンター熊本

所在地 熊本県菊池郡大津町室259-2
施設 模擬クリーンルーム、座学教室、事務所
※2023年3月 熊本県知事 認定職業訓練校に認定



高付加価値人材を育成する



実践的なプログラムで
「初期定着の向上」
と
「未経験から技術習得」



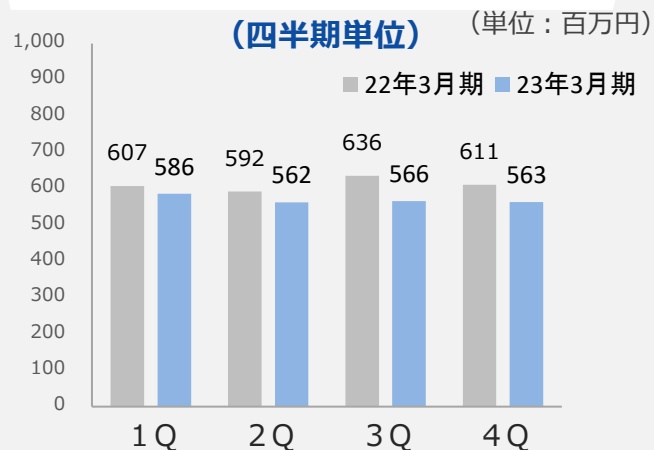
模擬クリーンルームに
12インチの
「最先端半導体製造装置」
を実装

事務系・その他の人材サービスについて

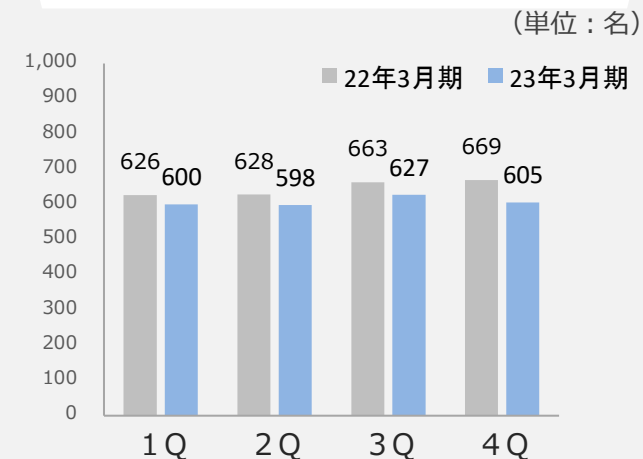
事務系人材サービスについて

4Qの事務系の売上高は、登録者数の伸び悩みもあり前年同期比で7.8%減少。

事務系 売上高



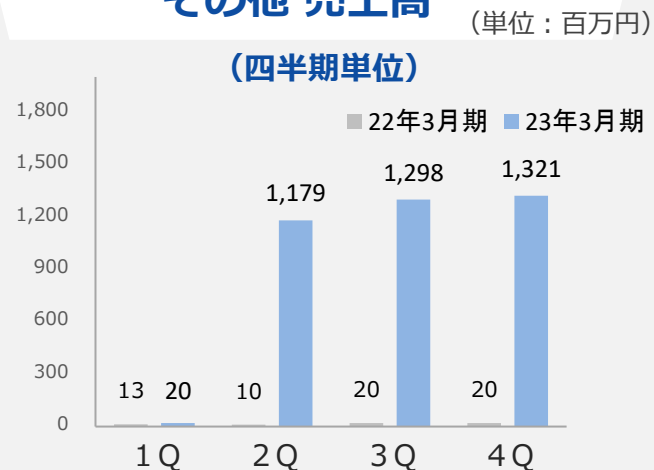
事務系 期末在籍人数



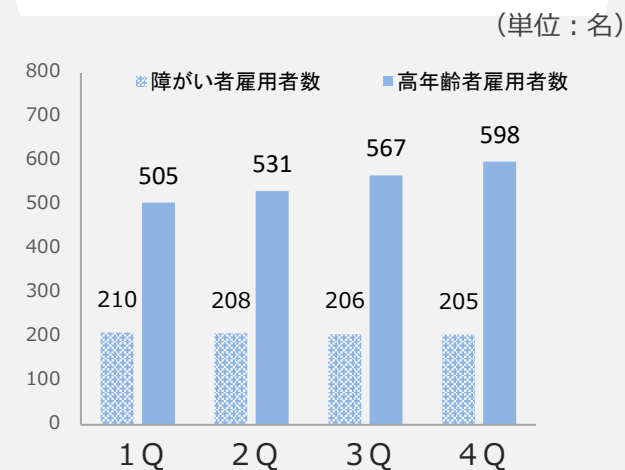
その他の人材サービスについて

- 株式会社ニコン日総プライムは高年齢者社員の活躍を支援。高年齢者社員数は3Q比で31名増加。
- 日総ぴゅあ株式会社は、多様な人材が活躍できる職場環境を構築中。
- 障がい者社員数は205名。

その他 売上高



高年齢者・障がい者在籍人数



介護・福祉系サービスについて

ポイント

- 介護施設全体の入居率は、94.5%に増加。
- 売上高は、前期比で2.3%増加。

● 介護・福祉系サービス実績

(単位：百万円)

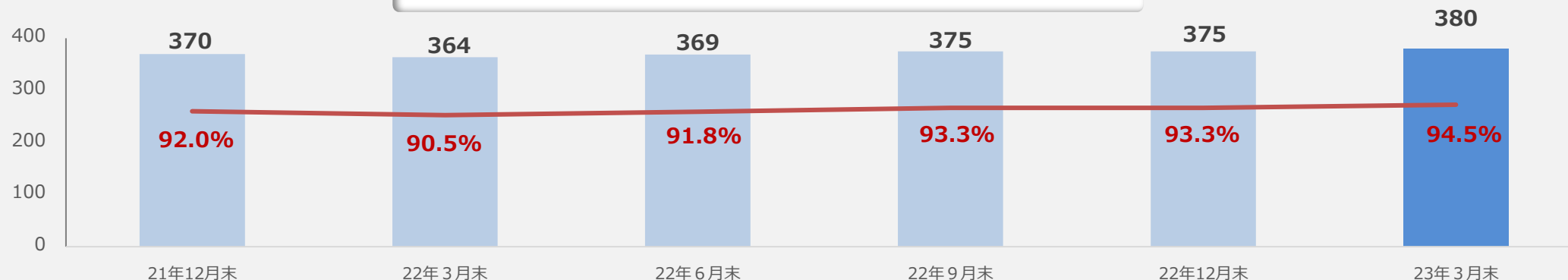
	22年3月期	23年3月期	対前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	2,963	3,031	68	2.3%

施設入居者数

(単位：名)

■ 入居者数 — 入居率

【1～6号館】 (定数402名)



4 今後の見通し（2024年3月期）

2024年3月期 通期連結業績予想



通期連結業績予想では、自動車での稼働回復に加え、P Cや通信機器関連の部品需要は徐々に回復すると予想、また半導体メモリ分野等では在庫調整による影響が残るものの、増収増益を見込んでおります。

■ 2024年3月期通期連結業績予想数値（2023年4月1日～2024年3月31日）

（単位：百万円）

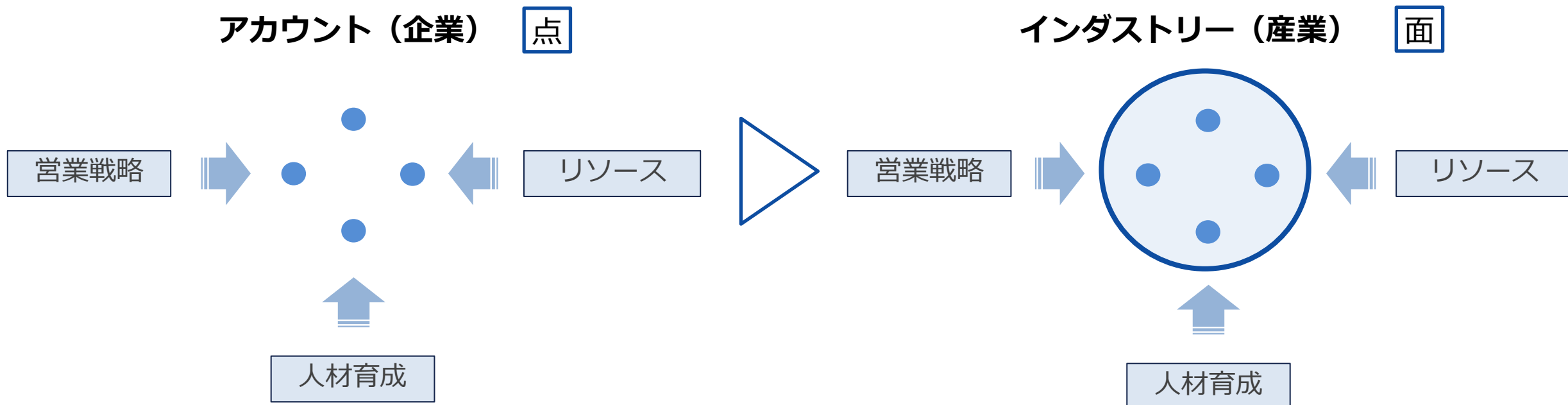
	23.3期実績		24.3期予想		対前期比	
	実績	百分比	予想	百分比	増減額	増減率
売上高	90,827	100.0%	100,000	100.0%	9,172	10.1%
営業利益	2,268	2.5%	3,600	3.6%	1,331	58.7%
経常利益	2,349	2.6%	3,600	3.6%	1,250	53.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,622	1.8%	2,300	2.3%	677	41.8%

アカウント戦略からインダストリー戦略へ

個のニーズに応えるだけでなく、インダストリー（産業）ごとのニーズに応じていくことで、引き続き日本のものづくりの成長に貢献してまいります。

これまで当社は、日本のものづくりの成長への貢献を目指し、お客様を個でとらえ、対象のお客様のニーズに集中的に応えるというアカウント戦略を採用してまいりました。

今後は、技術革新や環境問題などを背景に加速度的に産業構造が変化していくため、インダストリーごとに特化した人材育成を通じて、新たなお客様のニーズにも積極的かつスピーディに応えてまいります。



業界動向 ※当社独自予測



オートモーティブインダストリー (自動車製造・EV関連製造業界)

セミコンダクターインダストリー (半導体製造業界)

エレクトロニクスインダストリー (電子機器製造業界)

上期

設備投資

徐々に拡大

拡大

横ばい

生産動向

生産の増加は足踏み

製造装置・メモリは低調
パワー半導体は堅調

セミコンダクターと連動し低調

稼働動向

部品不足の影響は継続

稼働は低調

稼働は低調

要員動向

堅調

低調

低調

下期

設備投資

拡大

更に拡大

徐々に拡大

生産動向

部品不足も解消し繁忙

製造装置は緩やかに回復
メモリは低調

セミコンより遅れ回復

稼働動向

稼働は完全に回復

製造装置は緩やかに回復
メモリは低調

セミコンより遅れ回復

要員動向

堅調

来年を見据えた人材ニーズが急増

セミコンに続いて徐々に増加



5 株主還元方針

株主還元方針

基本方針

当社は、株主に対する利益還元と企業価値の向上を経営の重要課題と位置付けており、連結配当性向30%以上を目安に株主の皆さまへ安定した利益還元を継続することを基本方針としております。

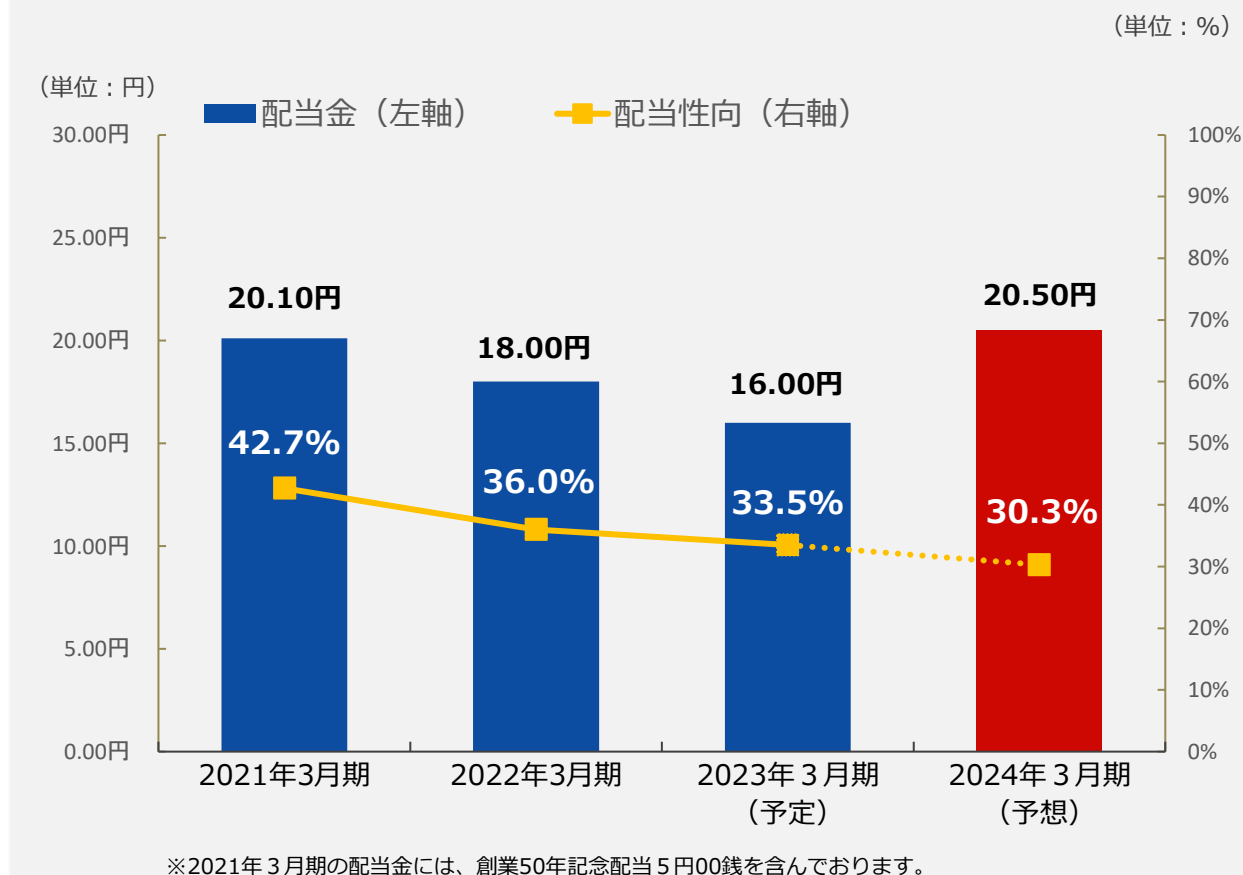
2023年3月期の配当（予定）

一株当たり配当金額は16.00円を（連結配当性向は33.5%）を予定しております。

2024年3月期の配当（予想）

一株当たり配当金額は20.50円を（連結配当性向は30.3%）を予定しております。

配当金と配当性向





6 補足資料

連結貸借対照表

(単位：百万円,%)

	22年3月末		23年3月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	19,068	69.4	21,747	72.3	2,679
現金及び預金	8,779	32.0	9,800	32.6	1,020
売掛金	9,324	34.0	10,870	36.1	1,546
固定資産	8,394	30.6	8,344	27.7	△49
有形固定資産	4,578	16.7	4,660	15.5	82
無形固定資産	1,667	6.1	1,514	5.0	△152
投資その他の資産	2,149	7.8	2,169	7.2	19
資産合計	27,462	100.0	30,092	100.0	2,629
流動負債	10,411	37.9	12,187	40.5	1,776
未払費用	5,381	19.6	6,119	20.3	737
未払法人税等	395	1.4	555	1.8	159
賞与引当金	1,058	3.9	1,395	4.6	336
固定負債	3,492	12.7	3,097	10.3	△394
長期借入金	2,509	9.1	2,019	6.7	△490
負債合計	13,903	50.6	15,284	50.8	1,381
株主資本	13,540	49.3	14,563	48.4	1,023
非支配株主持分	-	-	239	0.8	239
純資産合計	13,559	49.4	14,807	49.2	1,248
負債純資産合計	27,462	100.0	30,092	100.0	2,629

Point

①稼働人数拡大による増加

製造系人材サービスの稼働人数拡大他により、流動資産の「売掛金」及び流動負債の「未払費用」が増加しました。

②企業結合

株式の追加取得に伴う連結子会社の増加により、資産及び負債が増加しました。

③全体

上記の結果、前期末比で資産合計が9.6%増加、負債合計が9.9%増加、純資産合計が9.2%増加となり、自己資本比率48.4%となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	22年3月期	23年3月期	増減額
	金額	金額	
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,273	2,285	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,538	△146	1,391
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,164	△1,112	△3,276
現金及び現金同等物の増減額	2,899	1,026	△1,873
現金及び現金同等物の期首残高	5,873	8,773	2,899
現金及び現金同等物の期末残高	8,773	9,800	1,026

Point

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー
税金等調整前当期純利益等による収入が、売上債権の増加額等による支出を吸収し、2,285百万円の収入となりました。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー
有価証券の取得による支出、有形固定資産の取得による支出等を、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入等で吸収できず、146百万円の支出となりました。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー
配当金の支払、長期借入金の返済による支出等により、1,112百万円の支出となりました。



働きものを、幸せものに。

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

〈IRに関するお問い合わせ先〉

日総工産株式会社 IR部

電話 045-777-7630

E-mail ir@nisso-ir.com

URL <https://www.nisso.co.jp/>